

「フードバレーとまち」の取組と成果

第一期 (H22~H25) / 第二期 (H26~H29)

農林漁業を成長産業にする

- 戦略1 生産振興 (食料生産力を伸ばす)
- 戦略2 生産基盤整備 (活力ある食生産の基盤をつくる)
- 戦略3 担い手育成 (未来を担う生産者を育てる)
- 戦略4 試験研究機関との連携 (知的機関とスクラムを組む)
- 戦略5 農林水産物の安全・安心の確立 (食の安全安心を確保する)

- 【主な取組内容】
- 国際戦略総合特区の指定
 - JIAの農産物貯蔵施設、集出荷施設の整備支援
 - 十勝バイオマス産業都市構想の推進による設備投資支援
 - 十勝型GAPの普及
 - 施設園芸実証事業の実施
 - 実需者や試験研究機関と連携した新品種の実証試験栽培
 - 高付加価値作物(葉草)の作付けに対する支援
 - クワン農業(減肥・減農薬など)環境保全型農業への支援
 - 地域コントラクターによる飼料自給体制の充実
 - 和牛改良組合活動等への支援
 - ICT農業推進研究事業 (GPSガイダンス普及拡大)
 - 土壌分析支援(適正施肥促進)
 - TPP対策農林業育成資金貸付金の拡充支援

第三期 (H30~R3)

- 【主な取組内容】
- 国際水準GAPの普及促進に関する研修会の開催
 - 十勝型GAPが農水省「GAP共通基盤ガイドライン」完全準拠
 - 農林業育成資金貸付金拡充支援(肉用牛の生産増強やICT等の先進技術導入に係る拡充支援)
 - エゾシカとヒグマの隣接市町村での越境捕獲を継続
 - JIAの農産物加工施設等の整備支援
 - 長いも洗浄選別・包装設備、冷凍とろろ製造施設)
 - GPSガイダンス、搾乳ロボット等先進機械導入支援によるスマート農業の推進
 - 「十勝地域組合総合支援システム」の構築支援に伴うICT推進環境の整備
 - 「ISOBUS普及推進会」への参画
 - 農研機構を中心とした「北海道十勝発スマートフードチェーンプロジェクト」への参画
 - 地域連携フェロー制度に基づく、帯広畜産大学、とちか財団、市の関係者による情報交換の定期開催
 - 化学肥料、化学合成農薬を削減する環境保全型農業に対する支援
 - 川西、大正地区における光ファイバー網の整備
 - 十勝バイオマス関連事業推進協議会(H29)の設立や、川西バイオマス㈱(H30)への支援によるバイオマス利活用の推進

第四期 (R4~)

- 【主な取組内容】
- 食の備蓄・物流拠点構想の促進
 - 十勝の地理的優位性を活かした備蓄・物流・加工の集積の推進
 - 帯広川西IC地区土地区画整理事業の確認や北海道との協議
 - 企業立地促進条例の改正を通じた食関連産業の集積を図る
 - ICT農業の導入促進
 - 「ISOBUS普及推進会」への支援
 - 農研機構を中心とした「北海道十勝発スマートフードチェーンプロジェクト」への参画により「農業・食品版のSociety5.0」実現を加速化
 - 十勝農業試験場や帯広畜産大学など試験研究機関と協力した市場ニーズを捉えた新規作物の研究・マッチング
 - 農林業育成資金貸付金による先進農業の推進に係る支援
 - 黒毛和牛の生産振興に対する巡回指導及び和牛改良組合の活動等への支援
 - 森林整備事業の推進及び森林認証の周知拡大を図る
 - 無加温パイプハウスの施設の整備支援
 - 新規参入者による実践的支援や農家後継者の確保育成等
 - 地域連携フェロー制度に基づく、帯広畜産大学、とちか財団、市の関係者による情報交換の定期開催
 - 化学肥料、化学合成農薬を削減する環境保全型農業に対する支援
 - 持続可能な食料システムの構築に対する生産者の理解醸成
 - 十勝バイオマス産業都市構想の継続
 - 食育推進サポーターや関係各課等と連携した食育事業の実施

主な成果

- ◆十勝管内農協取扱高
H22年 2,380億円
⇒ R5年 3,573億円
- ◆食料自給率
H25年 1,100%
⇒ R5年 1,212%
- ◆畜産公社十勝工場輸出実績
H25年 0.6ト
⇒ R4年 225.7ト
- ◆国際戦略総合特区の制度支援による設備投資の誘発額 約580億円
- ◆十勝バイオマス産業都市構想による設備投資の誘発額 約243億円

今後の方向性

- ・持続可能な農業の構築 (環境への配慮、耕畜連携)
- ・スマート農業の振興 (ICT技術活用による省力・効率化)
- ・稼ぐ農業 (農畜水産物の高付加価値化)
- ・国際競争力の強化
- ・新たな知見の導入 (大学・試験研究機関、企業間連携)
- ・災害に強い農業 (気象変動に対応した生産基盤)

食の価値を創出する

- 戦略6 製品・研究開発 (とちかの食の価値を探り出す)
- 戦略7 創業・企業立地 (とちかの価値を活かして起業する)
- 戦略8 経営基盤強化 (とちかの企業力を高める)
- 戦略9 人材育成 (とちかの食の価値を活かす人を育てる)
- 戦略10 ブランド化推進 (とちかのブランド力を活かす)
- 戦略11 連携促進 (プレイヤーの結びつきを深める)
- 戦略12 関連産業群の集積 (とちかの価値を活かす産業を集積する)

- 【主な取組内容】
- 十勝産小麦の地元消費拡大とブランド化に向けた取組推進
 - フジッコと大豆ビニールを活用した機能性成分の抽出
 - 明治との乳の健康価値の創出に向けた実証試験、「十勝ヨーグルトプロジェクト」の推進
 - ものづくり総合支援補助金による食関連の新製品開発の支援
 - 地域資源を活用した新商品・製品開発への支援、工場の新增設への支援
 - 北海道畜産公社のと畜場整備の支援及び企業誘致の促進
 - 地域内における食文化向上の取組(フードバレーシェフの会、十勝酒文化プロジェクト)
 - 十勝・イノベーション・エコシステムによる創業・起業の促進
 - 人材育成事業の事業者支援

- 【主な取組内容】
- 十勝ブランド認証制度の拡充 (加工食品のみから原料・食材での登録も可となった)
 - 「十勝ヨーグルトプロジェクト」の取組・新商品発売、ブランドを活用したコラボレーション商品開発
 - JAL×JALUXとの連携による商品開発や物流・販路拡大
 - ものづくり総合支援補助金の対象事業者を十勝管内の事業者者に拡充
 - 帯広市西19条北工業団地の造成・分譲
 - とちか財団と起業家支援財団(神奈川県)の合併による創業・起業支援機能の強化
 - 「知」の集積と活用する場シンポジウムの開催
 - 国内トップクラスのマーケットに向けた販路開拓の推進
 - 加工業務用野菜の取り組みによる域内加工の充実
 - 未利用資源を活用した新たな価値の創出
 - 地域事業者の販路開拓トライアル支援
 - ドウ生産、ワイン醸造に取組む事業者の支援 (あいざわ農園、芽室ワイナリー、十勝まきばの家ワイナリー設立)
 - 帯広畜産大学敷地内に酒蔵設立(上川大雪酒造「碧雲蔵」)
 - 十勝・イノベーション・エコシステムによる創業・起業の促進
 - 十勝人チャレンジ支援事業の拡充(市からとちか財団主催へ)

- 【主な取組内容】
- 大学、試験研究機関の研究成果等を活かした十勝の価値創出
 - ⇒明治とのヨーグルトプロジェクト、LOVE十勝プロジェクト
 - ⇒畜大との未利用資源を活用した新商品開発
 - ⇒十勝農業試験場が開発する加工専用野菜のマッチング
 - 全日本司厨士協会協力による十勝新メニュー開発と、メニューを活用した食関連企業との新商品開発
 - これまでのネットワークを活用した販路開拓支援
 - ⇒JAL直営店やJALUXなどの取引小売店舗、ECサイトの活用
 - 越境EC等を活用した海外販路開拓
 - ⇒とちか機構が実施する産業振興支援コーディネートへの支援、海外展開支援
 - ⇒帯広物産協会が進める北海道フードネットワークプロジェクトによる新商品開発や販路拡大
 - 十勝アグリ&フードサミット等地域資源を活かした事業開発の促進
 - ・事業創発拠点LANDを中心としたベンチャーコミュニティの拡大
 - ・とちかビジネスチャレンジ補助金の実施
 - ・学び直しを支える環境づくりの推進として熱中開拓機構への補助を通じた食の熱中中学校の実施
 - ・帯広畜産大学と共同でフードバレーとちか人材育成事業の実施

- ◆北海道HACCP導入施設・食品件数
H19年~ 58件(十勝累計)
- ◆とちか財団の食品加工の相談件数
H23年 297件 ⇒ R4年 621件
- ◆立地企業件数 R5年 80件(累計)
- ◆食料品製造業の従業員一人当たり付加価値額(帯広市)
H22年 843万円
⇒ R3年 1,074万円
- ◆とちか・イノベーション・プログラム参加者数 630名(H27~R5累計)
- ◆フードバレーとちか人材育成事業修了者数(累計)
H24年 47人 ⇒ R5年 634人
- ◆十勝管内の新設会社数
H24年 149社 ⇒ R4年 215社

- ・ものづくりのレベルアップ (市場トレンドへの柔軟な対応)
- ・物流の改善 (少量多種混載、大都市圏への迅速な発送)
- ・起業家・経営者づくり (これからの十勝を担う人材の確保)
- ・新事業・新分野への挑戦 (事業者の進出支援)
- ・新たな価値の創出 (加工残さ、未利用資源の活用)
- ・十勝ブランドの強化 (産官学連携による総合的な取組推進)

十勝の魅力売り込む

- 戦略13 十勝の魅力発信 (とちかの価値を発信する)
- 戦略14 食・農林水産物情報の発信 (とちかの食を広める)
- 戦略15 観光振興 (とちかに人を呼び込む)
- 戦略16 物産振興 (とちかのモノを売り込む)
- 戦略17 流通・販路拡大 (とちかの食を国内外に広める)
- 戦略18 食育の推進 (とちかの食生活・文化を育む)
- 戦略19 地産地消の推進 (とちかで作る、とちかでする)

- 【主な取組内容】
- 東アジア・東南アジアでの観光プロモーション、滞在型ツアーの造成、チャーター便の増加
 - 首都圏や関西圏のホテルや飲食店における十勝産フェア
 - 小ロット物流構築の検討
 - JICA草の根事業を通じた事業者の海外進出
 - 「とちかの魅力発信PJ」の設置によるオール十勝での観光PR
 - 銀の匙等を活用したPR事業
 - 道東最大級の食イベント「とちかマルシェ」の開催
 - フードバレー交流都市との地域イベントの相互交流
 - 食育推進サポーターなど、関係機関と連携した「食育」事業
 - 農村ホームステイ受入れやインターンシップ事業の取組

- 【主な取組内容】
- DMO「デスティネーション十勝」のアウトドア観光事業推進
 - NHK連続テレビ小説「なつぞら」と連動した十勝PR
 - 首都圏トップシェフへの食材マッチング、関西圏の百貨店における十勝産フェアの開催
 - 食品メーカーとの連携による十勝産食材を活用した商品の全国販売(明治ヨーグルト、帝国ホテル十勝牛ビーフカレー等)
 - 北海道畜産公社十勝工場の機能強化(アメリカ・EU・香港・台湾等への牛肉輸出認定施設登録)
 - フードバレーとちか首都圏プロモーション(十勝大百貨店、ドリームマップ会議in東京、本気の移住実現プログラム)
 - 道東最大の食イベント「とちかマルシェ」の開催(継続)
 - TV等メディアを活用した十勝の食・産業情報の発信
 - 道内7空港一括運営委託の推進
 - 農業体験観光、農村ホームステイ受入れ、インターンシップ事業の取組支援(いただきますカンパニー、(同)TASUKI等)
 - ケダ(マレーシア)フードバレーへの協力(JICA草の根事業)
 - 札幌市を始めたダイヤモンドロマン構想を活用したPR
 - 関係人口創出・拡大に向けたワーケーションの実施
 - ⇒第一生命・十勝シティデザインと連携協定締結、コワーキングスペースの提供

- 【主な取組内容】
- 関係人口の拡大と新たな価値づくりの推進
 - ⇒十勝ファンの知見、発信力、購買力、投資力などを十勝の事業者、自治体に取り組みとちかファンミーティングの開催、ファンクラブ、ファンサイト「とちかテーブル」の開設・運営
 - ⇒UIターン促進事業を通じた大学生と地元企業の接点をつくるミートアップイベントによる関係人材育成
 - ⇒ふるさと納税返礼品の魅力向上
 - ⇒首都圏企業との新規事業創出
 - 体験・滞在型観光推進事業による観光コンテンツの強化
 - ⇒トカプチ400等サイクルツーリズムやアドベンチャートラベル推進
 - ⇒日高山脈襟裳国定公園の国立公園化の動きを契機としたアウトドアコンテンツの拡充
 - 食、アウトドア、サイクルを強みとした観光プロモーションの実施
 - 北海道エアポート㈱や観光関連団体等と連携した既存路線の利用促進や国内外路線拡充に向けたプロモーション
 - 東北北海道の中核都市との連携強化として、中核3市と北海道エアポート㈱、航空会社と連携したプロモーション
 - 国際農業機械展及びとちか食祭祭の開催

- ◆十勝の観光入込客数
H23年 約914万人
⇒R4年 約1,029万人
- ◆十勝の訪日外国人宿泊客延数
H23年 約9万6千人
⇒R1年 約16.3万人(R4:3.7万人)
- ◆とちか帯広空港定期便利用乗降客数
H23年 約51万人
⇒R1年 約65.9万人(R4:54.7万人)
- ◆原産地証明発行件数
H25年 51件 ⇒ R4年 72件
- ◆食育推進サポーター活用実績
H25年 1件80人
⇒ R5年 31件 1,643人

- ・産業、自然を活かした観光戦略 (食・農業・アウトドアを活かした観光振興)
- ・大都市圏での十勝PR (事業者マッチング・ハイブランドマーケットへのアプローチ)
- ・食文化の向上 (日本の食を支える地域としての責任のある食育)
- ・地産地消の推進 (十勝産農畜産物の域内消費拡大)
- ・空港運営委託による効率的な運用
- ・「十勝ファン」を活用した施策展開

強化された地域産業の成長基盤を活かし次のステージへ

フードバレーとちかのプラットフォーム

帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H27~)

地域活性化モデルケース (H26~)

十勝バイオマス産業都市構想 (H25~)

国際戦略総合特区 (H23~R3)

十勝定住自立圏形成協定 (H23~)

地域産業支援プログラム表彰事業
イノベーションネットアワード2017
農林水産大臣賞受賞

産業以外にも取組効果
十勝一体の広域消防体制の確立
「とちか広域消防局」(H28)

◆帯広市税収入額
H22年 213億166万円 ⇒ R4年 231億5,373万円

◆十勝の製造品出荷額等
H22年 4,094億1,536万円 ⇒ R3年 5,310億8,782万円

コロナウイルス、気象変動
自国保護主義(グローバル化の否定)
分断・不安定化が拡大する世界

↓

日本の食を支える
十勝の役割は益々重要に
「食の安全保障」

第一期 (H22~H25) / 第二期 (H26~H29)

第三期 (H30~R3)

第四期 (R4~現在)

